

開催にあたって

日本生命財団は、1979年に、人間性・文化性あふれる真に豊かな社会の建設に資することを願って、日本生命の創業90周年を記念して設立されました。

設立以来、次代を担う「児童・少年の健全育成」と「高齢社会への対応」「環境問題への取り組み」という3つの分野につきまして、重点的に助成を行っております。

環境分野では、「人間活動と環境保全との調和に関する研究」というテーマで公募研究助成を毎年実施し、これまでの累計で1,304件、30億円余りの助成を行って参りました。

当財団は、これらの研究がさらに進展し研究者間の交流や情報交換が円滑に行われることを願い、併せてテーマに関心を持たれる方々の意見交換の場を提供するため、「助成研究ワークショップ」を開催いたしておりますが、このワークショップも今回で38回目を迎えることとなりました。

今回のワークショップでは、名古屋大学の丸山先生を代表として当財団の「学際的総合研究助成」に採択された研究チームから、その研究成果を報告していただきます。

ご高承のとおり、「再生可能エネルギー」は、日本でもその導入が急がれておりますが、一方で、導入意義のひとつでもある“地域の活性化”、或いは“地域との共生”については、課題も指摘されております。

こうしたことも踏まえ、今回の研究は、「再生可能エネルギー事業における中間支援と認証制度」をテーマに研究を進めて頂きました。

立地地域の持続的発展に資する再生可能エネルギー事業のあり方や、地域社会や自然環境との共生を実現する仕組みについての提言を目指し、日本各地の事例に加え、ドイツにおける先進事例の調査なども実施いただきました。

今回はまず、代表研究者である名古屋大学大学院環境学研究科の丸山教授から研究の趣旨説明を行い、次いで、研究チームの各メンバー方から各々研究成果の発表を行います。そして最後に、ゲストの方々も交えて総合討論を行い、研究者と地域の協働のあり方について議論します。

このワークショップの開催が、再生可能エネルギーの更なる普及への契機となることを強く願っております。

公益財団法人 日本生命財団
「再生可能エネルギー事業における中間支援と認証制度」研究会